



着任から一年を振り返り― 「小さな幸せ」を感じられるまちづくりを

―着任から一年を振り返って

町民の皆さまにおかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。
昨年も新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中ではありましたが、ワクチン接種やマスク着用、換気、こまめな手洗いなど町民の皆さま



まちづくり懇談会（大原地区）

んのご協力で、いかにイベントや事業を実施できるのかを模索した一年になりました。

社会経済全体の閉塞感を少しでも緩和することも町の大きな責務であるため、2か年合同の成人式や消防出初式、やまんなか音楽会、第1回スポーツフェスタ、文化祭・生涯学習推進大会、いきいき秋まつりなど、感染拡大防止に工夫をしながら実施いたしました。

9月に発生した台風14号では記録的な豪雨と暴風により、農業用施設をはじめ、住宅等にも被害が発生しました。町内8か所の避難所に最大407名が避難されました。人命に被害がなかったことが幸いでした。

私が町民の皆さまにお約束した政策実行宣言を確実に進めるため、「子や孫へ希望あふれる未来を創りつなぐまち」を目指し、5本の柱（働く世代の元気、子どもの元気、高齢者・障がい者の元気、自然・環境の元気、地域の元気）に沿って具体的施策に取り組みました。

中でも、担い手不足をカバーしつつUターン者等の仕事の受け皿となる「特定地域づくり事業協同組合」につきましては、6月頃の設立に向け、準備を進めております。加えて、

旧神川中学校のサテライトオフィス（町内外の小規模の会社など）も4法人となり、社員の採用も着実に増加してきています。また、移住相談窓口を未来づくり課に一本化し、住環境、仕事、教育等の案内をわかりやすくするとともに、町外からふるさと納税で町を応援して下さる皆さんとの持続的なつながり構築のため、「ふるさと住民制度」を創りました。

子育て施策では、町営の学習塾の無償化、「バースデーブック（絵本のプレゼント）」の実施を進めるとともに新たな奨学金制度なども4月からスタートする運びになりました。

地域医療の拠点である肝属郡医師会立病院の再整備についても、3月末で基本設計を終え、4月以降に具体的な実施設計に移ることにしています。そのほか、高齢に伴い増加している認知症の皆さんが暮らしやすいまちづくりや、マイナンバーカードを活用したあいのリタクシーの実証実験もスタートしています。



あいのリタクシーの実証実験



認知症フレンドリー事業所に登録
（看護小規模多機能ホーム「宝樹」）

錦江町長 新田 敏郎

―令和5年度に向けた取り組みと想い―
昨年6月から町内10地区公民館で「まちづくり懇談会」を開催し、町が進めようとする施策について町民

の皆さんと意見交換をさせていただきました。

人が少なくなる将来への不安感から課題が多く出されていますので、政策の5本の柱を着実に進めていきたいと思っています。

特に少子化対策は喫緊の課題であるため、地方で子育てをしたい都市部の方々向けに、「保育園留学」と「山村留学」に着手したいと思っています。

また、特定地域づくり事業協同組合に加えて、移住者をはじめ地元若者が新しい仕事づくりができるような雇用支援組織の立ち上げも進めていきます。

学ぶ環境を整えるため、新たな奨学金制度もスタートしますが、錦江町の就業者の半数を占める医療、介護分野へ就職する若者には、その奨学資金の返済を補助する制度を創ります。

そのほか環境に優しいまちづくりの施策や基幹産業の農林水産業振興、子育て支援住宅の建設など、これまでの施策をさらに充実させながら、「小さな幸せ」を感じられるまちづくりを進めていきたいと思っております。町政運営に温かいご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。